

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月 日

【評価実施概要】

事業所番号	2775400266		
法人名	株式会社ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡		
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡東2丁目15-38 (電話) 0725-20-0818		
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん		
所在地	大阪府岸和田市三田町1797		
訪問調査日	平成20年12月17日(水)	評価確定日	

【情報提供票より】(20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	13.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,575 円	

(4) 利用者の概要(11月18日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	64歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岸和田徳州会病院・奥田医院・三田歯科診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「アムール忠岡」は南海本線忠岡駅から徒歩5分のところにあり、府内に複数の地域密着型サービス事業所等を展開する法人が運営している。公共施設やスーパーマーケット、診療所が徒歩圏内にあり、便利な立地にある。玄関周りにベンチテーブルや鉢植えが置かれ、親しみやすい雰囲気を醸しだしている。その奥には菜園や手作りのお堂にお地蔵さんが祭られている。地蔵盆には地域の子供たちを招待し地域との交流を深めている。職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、その人らしい暮らしの実現に向けた支援をチームワークで実践している。利用者と家族の意向に沿った終末期ケアに対応する体制もあり、落ち着いた雰囲気の中で安心と信頼と明るさのある生活の場となっている。もっとも印象深いことは、かわいいコーギー犬の活躍と利用者の歌声や手拍子のある明るい雰囲気、そして「私自身が入りたいと思うホームです」と笑顔で話してくれた職員の言葉である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、①「同業者との交流を通じた向上」と②「災害対策」の2点である。会議で外部評価の結果を報告し、①については、町内で事業者連絡会に参加し、隣接の泉大津市のグループホームと相互訪問をするなど交流を深めている。②については、今期中に2回目の避難訓練を実施する予定である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に評価の意義を説明している。自己評価票は全職員が記入した上で管理者がまとめる作業を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には利用者・民生委員・老人クラブ代表・自治会代表・コミュニティソーシャルワーカー・地域包括支援センター職員が参加し、グループホームの活動状況等の報告や参加者との意見交換によって地域との交流もスムーズに行われるようになっている。保育所への訪問・老人会の餅つきや健康教室等地域の行事を紹介してもらい参加することができている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等には来訪時に必ず話しかけ、些細なことでも伝えていただけるように雰囲気作りに努めている。また、家族等への「伝言ノート」を作り、口頭では確認できなかった要望や意見を聞く工夫をしている。家族等からの要望は職員と共に検討し改善に結び付けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、毎月行われる古紙回収や文化祭・運動会・盆踊り・老人会の餅つき等に参加している。また、地域の保育所を訪問したり、地蔵盆に地域の子供たちを招待するなど交流を深めている。地区の美化運動にも参加し、グループホームと地域が支えあう関係作りに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自に作成した理念で、「愛のある我が家のような生活を目指します。自由な環境を創造します。安心と信頼のホームを実現します。」がある。運営方針・年度事業計画・経営目標を策定しており、地域での生活の継続支援と地域との関係強化を明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員には採用時と年1回は理念・運営方針・事業計画・経営計画を書面で伝え、理解してもらうようにしている。会議や利用者との関わりについて話し合う時にも、理念等に沿うことを常に確認しあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、毎月行われる古紙回収や文化祭・運動会・盆踊り・老人会の餅つき等に参加している。また、地域の保育所を訪問したり、地藏盆に地域の子供たちを招待するなど交流を深めている。美化運動にも参加し、事業所と地域が支えあう関係作りに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に外部評価の意義を説明している。また職員全員が自己評価を行っている。前回の評価結果を会議で検討し可能な限り改善に取り組んでいる。職員は外部評価を受けることはサービスの向上につながることに捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、議事録を作成している。利用者・民生委員・老人クラブ代表・自治会代表・コミュニティソーシャルワーカー・地域包括支援センター職員が参加し、事業所での活動状況等の報告や参加者との意見交換によって地域との交流もスムーズに行われるようになっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初より介護相談員を受け入れており、例えば利用者がグループホームで飼っている犬に触れ合う方法を助言してもらったりするなどサービスの改善に役立っている。また、地域包括支援センターが主催する研修会等に参加し、町の担当者と定期的に情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回家族等へ「アムールだより」を送付し、利用者の様子や健康状態及び金銭管理状況などを報告している。また、家族等の来訪時には必ず利用者の様子を伝えている。グループホームでの行事にも家族等の参加を呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には必ず話しかけ、些細なことでも伝えていただけるように雰囲気作りに努めている。また、家族等への「伝言ノート」を作り、口頭では確認できなかった要望や意見を聞く工夫をしている。家族等からの要望は職員と共に検討し改善に結び付けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの職員は原則的に固定しているが、両方のユニットにかかわる兼務職員と急な用件に対応できるフリー職員を配置し職員の異動等のフォローに備えている。代表者や管理者が日頃から職員とコミュニケーションをとることによって職員の気持ちを理解し、一人でストレスを抱え込んだ状況にならないように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画（内部・外部研修）及び教育研修カリキュラムを作成し、それぞれの職員が段階に応じて必要な研修を受講できるように取り組んでいる。研修受講後は各自報告書を作成し、毎月の会議等でその内容を報告している。職員の資格取得にも積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	忠岡町の事業者連絡会に参加している。また、町内では唯一のグループホームであるため隣接する泉大津市の同業者と研修会や相互訪問を通じて交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の利用者と顔なじみの関係ができるまで、本人が納得するまで面会や見学の機会を設けている。また、入居前には随時相談を受け入れてケア、食事、趣味など本人や家族等からの要望を聞く仕組みづくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で調理や清掃などの家事、野菜や花作りや趣味など、利用者が得意な分野で力を発揮できる機会を作って共に分かち合う関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族等から利用者の情報を聴取している。また、利用者には職員の担当制をとっており、入居後は一人ひとりの気持ちに寄り添いながら暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りノート・家族への伝言ノートを活用して利用者の意向を把握し、管理者・サービス計画作成担当者・担当者・家族等でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月に1度行い、介護計画が利用者の状況に合っていなかったり、利用者の状態に変化が見られた場合には随時見直しを行っている。そのためのモニタリングもきめ細かく行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が家族の告別式に参加するため職員が付き添い支援を行った。また、かかりつけ医の受診に際しても家族と協同して通院介助を行ったり、必要に応じて柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に添ったかかりつけ医には家族あるいは職員が付き添い、受診できる体制ができている。必要に応じ往診を依頼することもあり、後期高齢者検診や入退院時の対応も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについてのマニュアル・説明書を用意しており、同意書にも押印がある。これまで行ったターミナルケアについて、家族等と職員の話し合いの経過記録が個別に残されている。管理者と職員同士の方針や情報共有もあり、職員に不安感は見られない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定を重要事項説明書に明記し、職員にも周知徹底している。言葉掛けやプライバシーの保持についても管理者及び職員が互いに注意しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの外出の希望などに添えるように両方のユニットにかかわる兼務職員と急な用件に対応できるフリー職員を配置している。車椅子で難波へ行くなどの遠方への外出支援も可能である。早朝や夜間の入浴希望にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回はバイキング形式の食事を提供したり、月に1～2回利用者が希望する献立を調理をしている。また個別に外食の希望にも対応している。準備や後片付けも強制にならないように、利用者の意思を尊重しながら参加してもらっている。介助食の利用者にもできるだけエプロンをしないようにしプライドに配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとりで交換し、好みの入浴剤を使用している。早朝5時からの入浴希望にも対応している。スーパー銭湯への付き添いも行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントから知ることのできた一人ひとりの趣味や楽しみに沿って園芸・野菜作り・唄を歌うなどが日常的に行われている。グループホームで小型犬を飼育しており率先して世話をしている利用者もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の喫茶店やスーパーマーケット等への外出や神社や河原への散歩など利用者の希望に沿った外出支援を行っている。犬の散歩も利用者と一緒にやっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠していない。利用者はリビングのコの字形に配置されたソファに座っていることが多く、職員が目が届き易くなっている。外出希望があるときは職員が付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。定期的な消防訓練は年1回実施している。地域と連携をとり利用者の避難への対応や住民の避難場所として機能できるようにしている。	○	今年度から年2回消防避難訓練を実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録表に毎日の食事摂取量・水分量を記録している。月2回体重測定を行い、摂取カロリーに過不足が見られた場合には利用者が好む食事やおやつを提供し、調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には利用者の植えた花々のプランターが並べられていて親しみやすい雰囲気がある。玄関内には飼育している犬のコーナーがある。リビングのソファは利用者の座りやすい高さに職員の手で調節がされ、お互いの顔が見えるように配置している。居間及び台所には生活感が感じられる。小型犬が室内外を出入りしており利用者にとって癒しとなっている様子がみてとれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室にエアコンを設置している。入居前には利用者宅を訪問し、自宅での暮らし方を知りできるだけ馴染みの家具・小物をグループホームでも使ってもらおうようすすめている。利用者は筆筒や小物など馴染みの物を持ち込み、居室に畳を敷いたりすることにより意心地良く過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。